

認知症高齢者のグループホームに関する研究 その8

－千葉県内のグループホームを対象として－

日大生産工 川岸 梅和
日大生産工（院） ○小泉 真規

1. 研究の背景

平成 18 年 4 月現在,総務省統計局による我が国の総人口は 1 億 2772 万人である。65 歳以上人口は約 2606 万人となり,総人口の 20.4%を占めるに至っており,国民の 5 人に 1 人が 65 歳以上となった。このように日本は世界に類を見ない速さで超高齢社会を迎えた。今後も日本の高齢者率は増加していくと考えられ,国立社会保障・人口問題研究所の発表では 2014 年に国民の 4 人に 1 人が高齢者となり,2041 年には 3 人に 1 人が高齢者になると予測している。高齢者人口の増加に伴い認知症高齢者も増加すると考えられ,2000 年には約 158 万人であった認知症高齢者は 2010 年には 231 万人,2020 年には 300 万人を越えると予測されている。このような超高齢社会において,認知症高齢者ケアに対して有効であるとされる GH^{注1)}も急速に増加し,平成 18 年 3 月 31 日現在,全国で 8,026 箇所^{注2)}に達しており今後も増加すると考えられる。GH が増加するにしたがい,GH の質が問われ始めてきている。GH の第三者評価の義務付けや,職員の研修制度などはその現われといえる。

2. 研究の目的

本研究では,千葉県内の認知症高齢者 GH の平面構成,面積構成,周辺環境及び高齢者の生活状況等を訪問調査により把握し,介護責任者・スタッフへのアンケート調査・ヒアリング調査を行い,種々の観点より GH の類型化を行い,類型ごとに比較・検討し,各々の特性を明らかにし,現状を把握することを目的としている。

3. 調査の概要

平成 18 年 3 月 31 日現在,千葉県より指定認知症対応型共同生活介護の認証を受けた GH (240 箇所)に対して,介護責任者及び介護スタッフへのアンケート・ヒアリング調査,及び住環境を具体的に把握するため,各 GH において実測調査を実施した。

アンケート項目は,運営,利用状況,住環境評価,周辺環境評価,コミュニケーションについての実状と評価,介護について,介護保険制度について,行政に望むこと等,ヒアリング項目は,開設の動機,開設にあたっての考慮事項,建築行為,所有形態,建物において改善すべき事項,居室の形態状況等で構成されている。

本稿においては,GH の建築行為及び面積比率について類型化を行い分析している。

有効回答が得られた千葉県内の GH161 箇所のうち,「新築」は 112 箇所,「住宅改装」は 20 箇所,「集合住宅・寮等改装」は 29 箇所である。尚,ユニット数^{注2)}の合計は 267 (1GH 当たり平均 1.65),居住定員の合計は 2256 人 (1 ユニット当たり平均 8.45 人),スタッフ数の合計は 2100 人 (1 ユニット当たり平均 7.87 人)である。尚,有効回答アンケート数の合計は 495 (1GH 当たり平均 3.07)である。

4. 評価方法

アンケート項目に対する責任者及びスタッフの評価については,アンケートの回答の中で「満足」を 5 点,「まあ満足」を 4 点,「普通」を 3 点,「多少不満」を 2 点,「不満」を 1 点として

得点化し、GH ごとに平均得点を算出し、これを評価得点とした。

5. GH の建築行為及び面積比率による類型化

認知症高齢者の GH の急速な普及の背景には、規模や改修の手軽さから、既存の住宅の改修のみならず、さまざまな用途の既存建築を改修し、再活用されることが多い。このような状況の中で、GH の建築行為を新築、住宅改修(住宅から GH に用途変更)、集合住宅・寮等改修(集合住宅・寮及び宿泊施設、医療、介護施設等から GH に用途変更)の 3 種類に分類した。

更に GH 平面構成の面積構成を LDK 面積、浴室+脱衣所、トイレ、居室面積、その他の 5 つに分類したうえで、それぞれ GH 使用床面積に占める割合(面積比率)を算出し、その面積比率を用いて、クラスター分析を行った^{注3)}。その結果、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類の 3 類型に分類した^{注4)}。各類型の面積構成を図 1 に示す。

Ⅰ類は 45GH が該当し、居室面積に関して、1 人当たりの面積が 12.73 m²と最も大きい。1 ユニット当たりの使用床面積が 221.40 m²と類型中最も小さく、規模の小さい GH と言えよう。

Ⅱ類は 78GH が該当し、1 人当たりの LDK 面積が 6.12 m²と最も大きい。また一人当たりの全共用面積が 8.49 m²と最も大きい。

Ⅲ類は 38GH が該当し、廊下を含むその他の面積に関して、1 人当たりの面積が 17.83 と最も大きい。また GH 使用面積が 305.33 m²と最も大きく、規模の大きい GH と言えよう。

面積比率と GH の建築行為の分類を基に、以下の 9 タイプに分類を行い、それぞれの特性を把握する。

- 1) 新築－Ⅰ類：24GH
- 2) 新築－Ⅱ類：56GH
- 3) 新築－Ⅲ類：32GH
- 4) 住宅改修－Ⅰ類：13GH
- 5) 住宅改修－Ⅱ類：6GH
- 6) 住宅改修－Ⅲ類：1GH^{注5)}

		LDK面積	浴室+ 脱衣所	トイレ	居室面積	その他	使用床 面積	全共用 面積
新築 Ⅰ類(n=24)	1ユニット当たり	41.08	8.67	8.11	110.02	63.61	233.06	59.42
	1人当たり	4.71	0.99	0.93	12.82	7.30	28.73	6.92
新築 Ⅱ類(n=56)	1ユニット当たり	54.91	10.14	8.84	105.47	103.05	284.78	76.24
	1人当たり	6.38	1.18	1.03	12.25	11.97	33.08	8.86
新築 Ⅲ類(n=32)	1ユニット当たり	35.62	9.81	9.34	95.49	150.07	301.83	56.06
	1人当たり	4.19	1.15	1.10	11.23	17.66	35.49	6.99
新築 平均(n=112)	1ユニット当たり	46.57	9.76	8.84	103.45	109.03	279.54	67.06
	1人当たり	5.42	1.13	1.03	12.03	12.68	32.51	7.80
住宅改修 Ⅰ類(n=13)	1ユニット当たり	29.64	6.29	3.39	85.69	45.42	171.42	39.32
	1人当たり	4.06	0.86	0.46	11.73	6.35	23.46	5.38
住宅改修 Ⅱ類(n=6)	1ユニット当たり	38.30	8.36	3.70	72.61	69.87	192.83	50.36
	1人当たり	5.47	1.19	0.53	10.37	9.98	27.55	7.19
住宅改修 Ⅲ類(n=1)	1ユニット当たり	98.10	0.00	18.10	235.00	319.20	668.70	129.50
	1人当たり	10.90	0.00	1.79	26.44	35.47	78.30	14.39
住宅改修 平均(n=20)	1ユニット当たり	35.79	6.68	4.10	88.58	67.23	203.09	47.29
	1人当たり	4.91	0.92	0.56	12.16	9.23	27.88	6.49
集合住宅・寮等改修 Ⅰ類(n=8)	1ユニット当たり	39.16	9.60	10.04	122.84	59.61	240.89	58.44
	1人当たり	4.55	1.12	1.17	14.28	6.93	28.01	6.80
集合住宅・寮等改修 Ⅱ類(n=16)	1ユニット当たり	44.12	8.05	7.53	99.71	101.73	263.04	61.62
	1人当たり	5.29	0.96	0.90	11.93	12.17	31.47	7.77
集合住宅・寮等改修 Ⅲ類(n=5)	1ユニット当たり	42.36	0.77	13.58	85.47	134.39	266.82	66.97
	1人当たり	5.29	0.10	1.70	10.68	16.80	35.85	8.37
新築集合住宅・寮等改修 平均(n=29)	1ユニット当たり	42.72	6.99	9.23	101.90	99.02	262.88	61.97
	1人当たり	5.12	0.84	1.11	12.22	11.87	31.52	7.43
平均(161)	1ユニット当たり	45.05	9.03	8.54	102.01	103.98	270.60	64.61
	1人当たり	5.33	1.07	1.01	12.07	12.31	32.03	7.85

図 1 建築行為及び面積比率による類型 面積構成(m²)

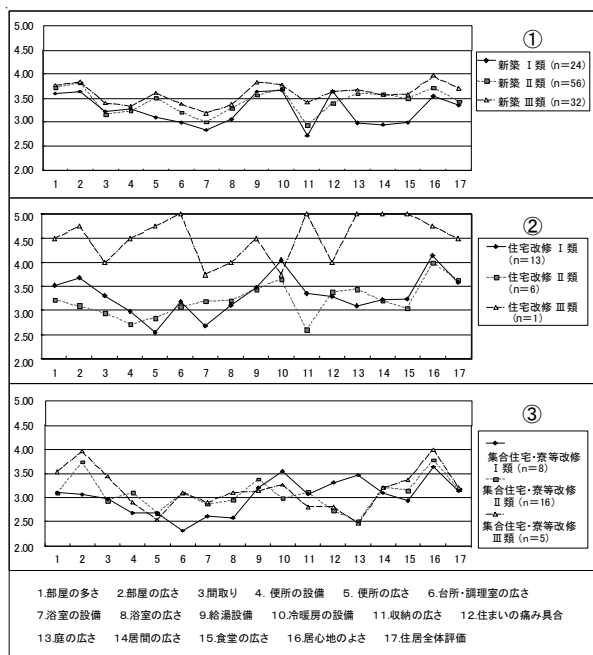


図 2 建築行為及び面積比率による類型 建物に関する満足度

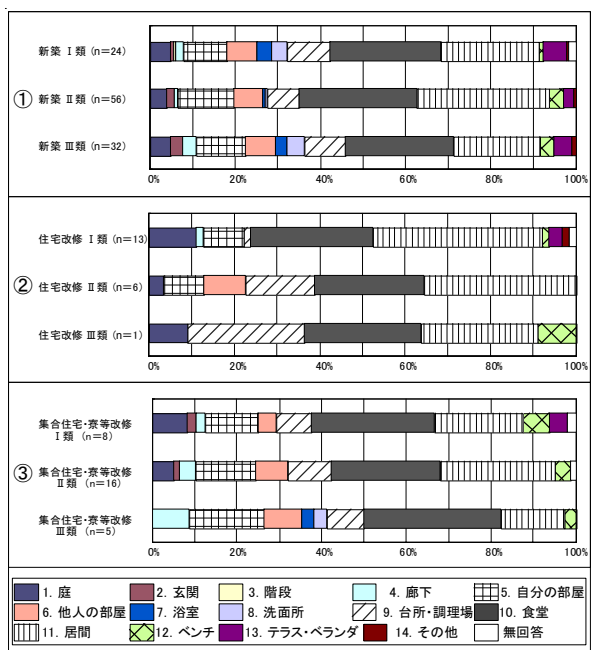


図 3 建築行為及び面積比率による類型 高齢者の集まる場所

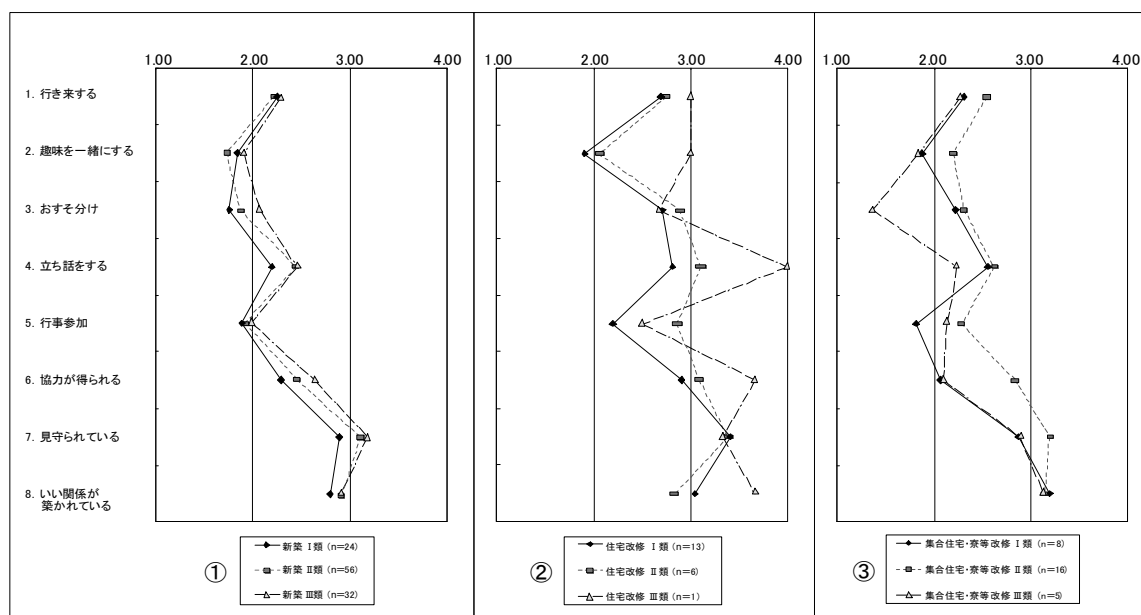


図 4 建築行為及び面積比率による類型 地域とのコミュニケーションについての評価

- 7) 集合住宅・寮等改修Ⅰ類：8GH
- 8) 集合住宅・寮等改修Ⅱ類：16GH
- 9) 集合住宅・寮等改修Ⅲ類：5GH

6. 建物に関する評価 (図 2)

17 項目の建物に関する評価について、5 段階評価で回答を得た結果を図 2 に示す。

新築と面積比率の分類(図 2-①)においては、Ⅰ類において「13. 庭の広さ」2.98, 「14. 居間の広さ」2.95, 「15. 食堂の広さ」2.99, 「16. 居心地のよさ」3.54 の評価が低く、全体としても低い評価となっている。Ⅲ類では、「6. 台所・調理室の広さ」3.38, 「14. 居間の広さ」3.57, 「15. 食堂の広さ」3.57 が高い評価となっている。

住宅改修と面積比率の分類(図 2-②)においては、Ⅰ類、Ⅱ類ともに「16. 居心地のよさ」「17. 住居全体評価」の項目が高い評価となっている。

集合住宅・寮等改修と面積比率の分類(図 2-③)においては、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類ともに「17. 住居全体評価」の評価が他の建築行為と比較して低い評価となっている。またⅠ類では、全ての項目において低い評価となっている。Ⅲ類においては、「2. 部屋の広さ」3.97, 「16. 居心地のよさ」4.00 が他の類型に比べ高い評価となっている。

7. 高齢者の集まる場所 (図 3)

新築と面積比率の分類(図 3-①)においては、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類ともに「10. 食堂」「11. 居間」の割合が高く、面積比率の類型による相違はあまりみられない。

住宅改修と面積比率の分類(図 3-②)においては、Ⅰ類、Ⅱ類ともに「11. 居間」の割合が高くなっている。「5. 自分の部屋」の割合は全類型をとおして最も低い割合となっている。Ⅰ類では、「1. 庭」11.11%が高い割合となっている。

集合住宅・寮等改修と面積比率の分類(図 3-③)においては、「4. 廊下」「5. 自分の部屋」に集まる割合が新築、住宅改修に比べ高い。またⅠ類、Ⅲ類ともに「10. 食堂」が高い割合となっている。

8. 地域とのコミュニケーション

8-1 地域とのコミュニケーションの実状と評価 (図 4)

8 項目の地域とのコミュニケーションについて、5 段階評価で回答を得た結果を図 4 に示す。

新築と面積比率の分類(図 4-①)においては、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類ともに「1. 行き来する」「2. 趣味を一緒にする」「3. おすそ分け」「5. 行事参加」の評価が類似傾向を示すとともに低い評価

となっている。また「7. 見守られている」が 3 類型ともに比較的高い評価となっている。

住宅改修と面積比率の分類(図 4-②)においては、Ⅰ類、Ⅱ類ともに「2. 趣味を一緒にする」を除いて全体的に高い評価となっている。特に「3. おすそ分け」「7. 見守られている」の 2 項目においては、新築、集合住宅・寮等改修と比較しても高い評価となっている。

集合住宅・寮等改修と面積比率の分類(図 4-③)においては、Ⅰ類とⅢ類では「1. 行き来する」「2. 趣味を一緒にする」「6. 協力が得られる」の項目において類似傾向を示すとともに、低い評価の推移がみられる。

7. まとめ

新築において、「住居全体評価」の満足度はⅢ類が最も高い。Ⅲ類は廊下を含む「その他」の面積が占める割合が高く、高齢者の集まる場所においても、「他人の部屋」「廊下」の割合が高くなっている。従って、LDK 空間以外にも高齢者の集まれる配慮がされていると思われる、評価を高くしていると考えられる。Ⅱ類は LDK 空間の占める割合が高く、高齢者の「食堂」「居間」に集まる割合は類型中最も高く、LDK 空間が高齢者にとって生活の中心になっていると考えられる。地域とのコミュニケーションの評価については、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類ともに低く、類似傾向がみられる。

住宅改修においては「住居全体評価」の満足度はⅡ類が最も高い。Ⅱ類では高齢者は主に LDK 空間に集まっている。また「自分の部屋」「他人の部屋」に集まる割合が他の類型に比べ高い。地域とのコミュニケーションにおいては、Ⅰ類、Ⅱ類ともに高い評価となっている。

集合住宅・寮等改修においては、「居心地のよさ」「住居全体評価」の満足度はⅢ類が最も高い。Ⅲ類は「その他」の占める割合が高い面積比率である。また高齢者の「居間」に集まる割合は類型中最も低く、「廊下」「自分の部屋」「他

人の部屋」の割合が他の類型に比べ高い。LDK 空間以外に高齢者が集まることのできる配慮がされており、評価を高くしていると考えられる。

認知症の進行の緩和には、日々の生活を身体で感じることができるような街中や住宅街で、地域と連携していくことが重要である。そのため、「住宅改修」に注目できる。「住宅改修」では「小規模」「地域密着」が他の類型よりも顕著に現れており、GH ケアがより確実に実践されていると考えられ評価が高い。しかし、小規模であるがゆえに「広くしたい」という声も多く聞かれ、面積に関する不満も顕在しているのが現状である。また、どの建築行為の類型においても居室の占める割合が高いⅠ類において、居室が高齢者の集まる場所にはなり得ておらず、よりよい高齢者の居場所となるには、居室に利用者同士が立ち寄ってくつろげる様な設え等が必要である。複数の居場所から、高齢者が自分で居場所を選択することはストレスを軽減させ、GH の質の向上に繋がると考えられる。

注

- 注 1) 「グループホーム」を「GH」と記述している。
注 2) GH では 1 ユニット(最大 9 名の居住者)単位で構成され 2003 年から 1GH で 2 ユニットまでと規定されている。尚、本調査では、調査対象 GH の平面図、及び聞き取り調査を基にユニット数を算定している。
注 3) クラスタ分析の方法としては、ユークリッド平方距離によるウォード法を用いた。また、クラスターを形成する距離は、各クラスター内の面積比率の平均値を求め、クラスター間に明確な平均値の差異のある距離とした。
注 4) Ⅰ類は LDK 空間の割合が 26.0%と高く、その他の割合が低い。LDK 空間の占める割合が他の類型よりも高く、LDK に重点の置かれた面積構成と考えられよう。Ⅱ類は居室の占める割合が 47.3%と高く、LDK・その他の割合は低い。居室に重点の置かれた面積構成といえよう。Ⅲ類は LDK・居室ともに占める割合が低く、その他の割合が高い。廊下部分や居室以外の部屋が多くを占める面積構成と考えられる。建築行為及び面積比率による類型の内訳は以下の表の通りである。

平面構成	LDK面積	浴室・更衣所	トイレ	居室面積	その他
Ⅰ類 (n=45)	18.03%	4.32%	3.42%	48.61%	25.62%
Ⅱ類 (n=78)	18.68%	4.32%	2.90%	37.50%	36.60%
Ⅲ類 (n=38)	12.42%	3.43%	3.08%	31.71%	49.35%

- 注 5) 住宅改修では、Ⅲ類が 1GH しか属していないため、比較、分析対象から除外した。

参考文献

- 1) 「痴呆老人百科」, 中央法規出版 (1993)
- 2) 「GH 入門」, 鳩山邦夫・山井和則著, リヨン社 (1999)
- 3) 「GH 読本」, 外山義, ミネルヴァ書房 (2000)
- 4) 「改訂新版 GH の基礎知識」, 山井和則著, リヨン社 (2005)
- 5) 「平成 17 年版 厚生労働白書」, ぎょうせい (2005)

本論文に関連する既発表論文

- Ⅰ) 川岸 梅和, 染谷 佐登子, 梅木 千恵子「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究 - 千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ -」日本建築学会計画系論文集 第 580 号, 141-147, pp. 2004. 6
- Ⅱ) 川岸 梅和 他「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究, その 2-7」日本大学生産工学部学術講演会建築部会講演概要, 第 33 回, pp. 121-124, 2000. 12 第 34 回, pp. 89-92, 2001. 12 第 35 回, pp. 5-8, 2002. 12 第 36 回, pp. 247-250, 2003. 12 第 38 回, pp. 257-264, 2005. 12
- Ⅲ) 川岸 梅和, 染谷 佐登子, 半沢 英理子「痴呆性高齢者グループホームの立地環境及び住空間構成に関する研究 - 千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ -」日本大学生産工学部研究報告 A, pp. 9-20, 2002.